

## [追悼]

## 古沢 仁先輩の逝去を悼む

篠原 暁\*



2006年2月、沼田レプリカ工房にて海牛化石レプリカの監修をする古沢さん

2023年9月2日、札幌市博物館活動センターの古沢仁学芸員が、膵臓癌のため逝去されました。67歳という若さでの訃報に多くの方が驚きと悲しみに包まれました。

私にとって古沢さんは化石の世界に誘ってくれた恩人です。私が1979年に北海道教育大学札幌分校に入学した際、古沢さんは地学科の4年生でした。新入生ガイダンスで各科の先輩が学科紹介をしてくれた時に、一番面白かったのが地学科でした。なんとといっても古沢さんの話の魅力に引き込まれてしまったのです。あとで知ったことですが、古沢さんは大の落語ファンで、時々ユーモアを交えながらの学術講演のセンスは寄席で磨かれていたのです。

古沢さんの最大の功績は、北海道で脊椎動物化石の研究ができる土台を築いたということでしょう。当時まだ指導教官もない道内の大学で化石研究の道を目指す、そんな無謀とも思える願いが可能になったのは、古沢さんが大学に入学した翌年に帯広の高校教員から大学へと転職してきた木村方一先生との出会いがあったからでした。以来、二人三脚で化石の研究を進めて行く中で、歌登のデスモスチルス、そして古沢さんの進路を決定づけた深川市でのクジラ化石発見へとつながって行ったのです。

さらなる古沢さんの功績は、化石の発掘、研究から展示までを地元の手で行ったことです。大学を卒業し札幌市で小学校の教員を始めていた古沢さんの人生を大きく変えたのは、1980年に滝川市で発見されたタキカワカイギウ化石との出会いでした。

タキカワカイギウの発掘は古沢さんと開拓記念館（現北海道博物館）の研究者、そして地元の教師たちによって行われました。この教師たちが後に「滝川シレニア会」を組織し、タキカワカイギウを教材化する取り組みを行ったのです。教師を辞めて滝川に赴いた古沢さんは、シレニア会と協力して化石のクリーニングを進め、後に「滝川方式」と呼ばれるレプリカ製作法も確立していきます。

滝川市に博物館（美術自然史館）ができた後、古沢さんは市の職員を退職して一旦は高校の教員に戻りますが、ここで4度目の化石と出会います。それがヌマタネズミイルカでした。この時も古沢さんと木村先生が指導し、沼田町内の教師や滝川シレニア会のメンバーによって発掘が行われました。発掘後は古沢さんが週末毎にバイクで通いながらクリーニングと化石のレプリカ作りを指導します。その作業を担ったのが町内の女性たちで組織された愛称「レプリカーズ」です。

ここに至り古沢さんは再び教師を辞めて学芸員に転身します。古沢さんとレプリカーズは、ヌマタネズミイルカの復元骨格を完成させ、現在の沼田町化石体験館における展示の基礎を造りました。そしてその取り組みは、古沢さんの最後の職場となった札幌市博物館活動センターにおけるサッポロカイギウのレプリカ製作へとつながって行ったのです。

サッポロカイギウが見つかった豊平川からは、大型のヒゲクジラ化石も発見されています。古沢さんは、この2体の巨大な海洋生物が展示されるはずの、仮称「札幌市自然史博物館」構想策定作業を進めながらも、その実現を見ることなく世を去りました。古沢先輩、あなたがめざした博物館は私たちがしっかり見届けます。どうぞ安らかに眠りください。

\* 〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南一条7丁目6番49号

E-mail: herpetocetus@gmail.com